



PPG、創業以来最高の第二四半期の売上高 コーティング部門が弾み

米国ピッツバーグ発(ビジネスワイヤ電)
2004年7月15日

本日、ピーピージー・インダストリーズは、2004年第二四半期の純利益を1億8,300万ドル(198億円)と発表した。売上高は創業以来最高の24億3,000万ドル(2,620億円)となった。なお前年同期の純利益は1億5,200万ドル(164億円)だった。

「当社の第二四半期の業績が、これほど力強いものとなった理由としては、景気の拡大、そしてより重要なポイントとして、コーティング部門で収益性を伴う成長をもたらす戦略を一貫して取り続けたこと、光学製品の順調な売上げ、そしてコスト削減重視の姿勢を貫いたことが挙げられます。景気全般は今後も拡大が続くと予想されますが、全ての分野が同じように拡大するわけではないと思われまます。それでもトータルで見れば、景気の拡大は続いていくでしょう。」こう語るのは、PPGの会長兼最高経営責任者レイモンド・W・ラバァフだ。

コーティング部門の売上高は13億5,000万ドル(1,460億円)で、四半期売上高としては創業以来最高となり、前年比で1億500万ドル(113億円)増、8%増となった。売上増に貢献したのが、建築用塗料、工業用塗料、自動車用塗料、航空宇宙用塗料、自動車補修用塗料の販売数量の増加とドル安であり、自動車用塗料の製品価格の若干の低下がマイナス要素だった。営業利益は2億2,300万ドル(241億円)で、これも四半期ベースでは創業以来最高となった。前年比1,800万ドル(19億円)増。販売数量の増加と生産効率の向上が大きく貢献し、建築用塗料の販売経費の膨張、コストインフレと販売価格の下落によるマイナスを上回った。

ガラス部門の売上高は、前年比1,000万ドル(11億円)増(2%増)で、ガラス繊維、板ガラス、自動車用ガラスの売上高が増加し、販売価格の下落、自動車補修用ガラスの販売不振を帳消しにした。営業利益は4,000万ドル(43億円)増え、生産効率の向上、販売数量の増加、製品以外による売上増が原因。販売価格の低下やコストインフレを十分に補うものだった。

化学品部門の売上高は、前年比2%増で、金額的には1,000万ドル(11億円)増。汎用化学品や光学製品の販売数量が増加し、それに加えてドル安によって、汎用品の販売価格の低下というマイナス要因が補われた。しかし営業利益は、エネルギー費の高騰により、前年比2,000万ドル(22億円)減となった。光学製品の販売価格の低下、販売経費や宣伝広告費の増加といったマイナス要因の影響が大きく、販売数量の増加や生産効率の向上といったプラス要因が打ち消された。



お問い合わせ先:

〒150-0002
東京都渋谷区渋谷2-15-1
渋谷クロスタワー13階
PPGジャパン(株)
工業用塗料部
TEL 03-3476-7015
FAX 03-5778-2557
E-mail: sales_japan@ppg.com